日本中国語学会々報　2013年12月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶　古屋昭弘（会長）……1
2013 年度全国大会総括……2
2013 年度学会奨励賞の選考経緯……3
編集委員会からのお知らせとお願い……4
理事選挙開票結果報告……4
支部例会実施報告　2013.9 - 2013.12……5
会議報告……10
例会および全国大会開催のお知らせ……18
事務局からのお知らせ……19

ご挨拶

古屋昭弘（会長）

去る 10 月 26 日と 27 日の二日間、東京外国語大学において、第 63 回全国大会が開かれました。台風 27 号と 28 号の関東直撃が心配されましたが、幸い進路が逸れて、二日目は快晴となりました。これもみな、周到な準備をして下さった開催校代表の三宅登之先生、加藤晴子先生を中心とする同大学スタッフ、竹越孝委員長をはじめとする大会運営委員会各位の神通力のおかげに違いありません。

天候がはっきりしない中（特に 26 日）、勇躍参会してくださった会員の皆様、ご講演の沈家煊先生、ワークショップ、分科会、ポスターセッションの発表者各位、司会の先生方、本当にありがとうございました。

初日の評議会では、「学会著作権規定」（本号 p13-14）が承認され、総会では大西克也理事から詳しい説明がありました。同じく評議会と総会で了承して頂いたとおり、今後、メール希望の方には所属支部のみならず全国の支部例会通知をお届けすることになりました。葉書継続希望の方には所属支部の通知が郵送されます。なお例会の運営自体は各支部の裁量に任されていること言うまでもありません。

大会前には『中国語学』の執筆要領が改訂され、投稿原稿テンプレートが作成されました。2016 年の学会創設 70 周年に向けて中国語学新辞典の編纂も着々と進行中です。学会ウェブサイトやメールマガジンも益々充実してきています。会員情報管理システム（e-naf）も順調に機能しています。各委員会と事務支局のご尽力に心より感謝致します。

今回の選挙により太田斎会員を新会長とする次期理事会の体制が決まりました（本号 p4）。現事務局としては残りの任期も気を緩めることなく学会運営に全力を注ぐ所存です。会員の皆様のご協力とご支援をお願い致します。

2013 年度全国大会総括

Ⅰ．今年度大会総括

第 63 回全国大会は、東京外国語大学（東京都府中市）を会場として、10 月 26 日［土］、27 日［日］に開催された。台風 27 号の進路が懸念されたが、結果的にほとんど影響を受けずに済んだのは幸いなことであった。また、開催までの数日間、理事会・開催校・運営委員会が緊密に連携し、混乱が生じないよう慎重に議論を重ねたことは、危機管理の面で有益な経験となった。

（1）参加者数

参加者総数は 403 名、うち一般参加者が 363 名、書籍等の展示関係者が 40 名である。

（2）総評

今回は、シンプル・合理的でありつつも随所に細かい配慮がなされた大会であった。ここ数年模索してきた、開催校と運営委員会が連携して大会準備を行う方式における一つの理想的なモデルが出来上がったものと思われる。

初日の沈家煊氏（中国社会科学院語言研究所）による講演「双音化在汉语语法中的地位和作用」では、中国語にとって最も意味のある区分は単音節と二音節の別であることが主張されるとともに、印欧語中心の言語観から脱し、中国語の言語事実から出発した理論を構築する必要性が説かれた。これまで欧米の最新理論を自家薬篭中のものとしてこられた沈氏の言葉であるだけに重みがあり、来場者は大きな啓発を受けた。

昨年より導入されたワークショップでは、二つの会場に分かれてセッションが行われた。第 1 会場では、大西克也会員の企画になる「指称の範疇化と「存在」の問題をめぐる考察―歴史文法の観点から―」が行われ、大西克也、松江崇、木津祐子、木村英樹の 4 氏が、各時代における指称体系の特徴を論じ、その相違を比較通覧することによって指称範疇の形成過程にアプローチした。理論的研究と有機的に絡んだ形で通時的な研究が展開された点において、大きな意義を有する企画であったと言える。第 2 会場では望月圭子会員の企画になる「网上现代汉语词典的建构与对汉语教学研究的贡献」が行われ、詹衛東、砂岡和子、望月圭子、福田翔・彭筱雯の 5 氏が、最新の中国語学習コーパスやオンライン中国語辞典の構築状況を報告するとともに、その中国語教育への応用についていくつかの提言を行った。この中で提起された中国語学習者の誤用類型は、効果的な中国語教授法の開発にとって重要な視点となるように思われる。以上いずれのセッションも、来場者にとって大きな刺激となるものであったことは疑いなく、今後もこういった形で本学会が共同研究推進の一助となることを願いたい。

ポスターセッションは、昨年度より二日目の昼の時間帯に設定されるようになったが、昨年同様各ブースにおいて活発な交流が行われた。分科会の研究発表についても、特に大きなトラブルは報告されていない。

今大会を成功裡に終えることができたのは、ひとえに三宅登之・加藤晴子両会員を中心として組織された開催校スタッフのご尽力の賜物であり、殊に学生スタッフの働きぶりは特筆に値するものであった。この場を借りて厚

く御礼を申し上げたい。

（3）改善点、反省点

■応募受付やプログラム編成の段階では特に問題がなかったが、予稿集原稿の提出遅延者が出たことは残念であった。こういった異例の事態に対しては、運営委員会から注意を促したり、理由書の提出を求めたりすることがあるので注意されたい。

■分科会では昨年度より発表ごとに 5 分間の休憩を挟むことにしているが、使用機材の調整や意見交換などに活用されており、今後も必要と思われる。

■分科会発表における講評については、今年度より大会運営委員以外が司会を務める場合にも枠を拡大し、概ね好評をもって迎えられたようである。今後も、特に若手の会員が講評を受ける機会を増やしていきたいと思う。

■分科会において、予稿集の内容と甚だしく乖離したプレゼンを行った発表者が見られたことは残念であった。これが司会者・来場者との信頼関係を大きく損ねる行為であることをぜひ認識していただきたいと思う。

■大会受付・懇親会受付の態勢を変更したのは、開催校の負担を減らすためにシンプルな大会運営を模索してきた結果であり、引き続き参加者のご理解を得るべく努力したい。

Ⅱ. 来年度の全国大会にむけて

（1）来年度の第 64 回全国大会は、大阪大学豊中キャンパスで 11 月 15 日（土）、16 日（日）に開催する。

（2）来年度も初日の企画は招待講演 1 本＋ワークショップとし、二日目に分科会発表及びポスターセッションを行うという方針で臨みたい。ワークショップは企画者・発表者間の緊密な連携と入念な準備が必要となるため、応募時期は一般の発表申込よりも早く、2014 年 4 月 1 日（火）より 4 月 30 日（水）までとする。詳細については 2013 年 12 月末までに学会ウェブサイトに応募要項を掲載するので参照されたい。

（3）来年度も、一般発表の応募要項はウェブサイトでの告知のみとする。4 月初旬頃までに学会ウェブサイトに掲載されるので、その要領に沿って応募されたい。

（4）開催準備及び大会運営に関しては、今年度の経験をふまえて改善を進めたい。今後も簡素化を図って開催校の負担を減らしていく方針であり、引き続き参加者のご理解とご協力をお願いする次第である。

（全国大会運営委員会）

2013 年度学会奨励賞の選考経緯

編集委員会では、今年 3 月の第 1 回編集委員会において、『中国語学』259 号に掲載された論文の中から学会奨励賞の選考対象とする論文 3 本を選出し、さらに 5 月に開かれた第 2 回編集委員会において、選考対象論文 3 本について慎重な協議を行なった結果、今回は該当者なしと決定し、この案が理事会において承認されました。

（編集委員会）

編集委員会からのお知らせとお願い

近年『中国語学』に掲載された投稿論文において、事後の調査で重複投稿と認められるものが発見されました。重複投稿は、会誌『中国語学』の投稿規定に抵触する重大な違反行為です。理事会における審議の結果、執筆者に警告文を送付の上、厳重に注意を促すという措置をとることになりました。

2013 年度の全国大会（2013 年 10 月 25 日･26 日の理事会および評議会）において、「学会著作権規定」が承認、施行されましたので、今後同様の違反行為があった場合、学会は当事者に対して法的措置をとることが可能になります。会員のみなさまにおかれましては、投稿規定をよくお読み頂き、重複投稿とならないよう十分ご注意ください。なお、「学会著作権規定」（本号 p13-14 に掲載）ならびに「『中国語学』投稿規程」に関してご不明な点などありましたら、編集委員会までお問い合わせください。

（編集委員会）

理事選挙開票結果報告

第 63 回全国大会第 1 日目（東京外国語大学、2013 年 10 月 26 日）に理事選挙が行われました。開票の結果、以下の方々が次期（2014−15 年度）理事に当選されました。13 票獲得の 7 位 3 名から 1 名を次点扱いにすべきところ、最高得票の荒川会員が体調を理由に会長・理事就任を辞退、候補者の過半数がこれを是としたため、1 名を次点扱いにせず、候補者 8 名の互選により、会長として太田斎現副会長を選出しました（「会長及び理事選出に関する内規」参照）。なお副会長につきましては、後日、新会長が理事の中から委嘱することになります。

当選者並びに各得票数は以下の通りです。

■ 投票総数 : 373 票（うち、有効投票総数 327 票、白票 31 票、無効票 15 票）

■得票数：

1.	荒川清秀	33（理事辞退）
2.	太田　斎	32（会長）
3.	大西克也	27
4.	小野秀樹	18
5.	平井和之	15
	古川　裕	15
7.	遠藤光暁	13
	木津祐子	13
	楊　凱栄	13（以上理事）
次点	竹越　孝	11

（選挙管理委員長　依藤醇）

支部例会実施報告　2013.9 - 2013.12

◆関東支部例会

◇2013 年 11 月 16 日（土）慶應大学三田キャンパス

・中司梢（早稲田大学・非）：認知心理学的観点からの中国語動作動詞の体系化―脳はどのように動作を表象するか

動詞は名詞と異なり、物理的に他の事物に依拠しなければ存在しえないとされる。また動詞が指し示す内容は時間の推移とともに変化しやすいため、意味の把握は比較的困難である。中国語には動作動詞が数多く存在するが、従来の研究においてはそれらが充分に体系化されたとは言いがたい。そもそも動詞として顕在化する以前、我々の脳はどのように動作を表象するのであろうか。それは即ちどのように動作に関わる情報を符号化し、保持し、取り出すかといった一連の処理過程を指す。本発表では中国語の手に関わる動作動詞を対象として、認知心理学の観点から脳における動作の表象について考察し、それによって動作動詞の意味の体系化を目指したい。

・青木萌（神奈川大学・院）：現代中国語における副詞“都”の意味と論理

本発表では、侯学超編(1998:161-166)の見解を基に、論理的な観点から見ると、副詞の“都”は範囲副詞、時間副詞、語気副詞等といった区分にとらわれることなく，すべて［全指示］の意として解釈し得るということを提示する。その上で、量化(quantification)が、“都”を持つ構文でどのような働きをするかを論じる。

・辛奕嬴（杏林大学・院）：现代汉语“的”认知过程中的语义考察

助词“的”在传统语法中虽然可以表示许多语义，但笔者认为这些语义并不是“的”的本质语义，而是与其他词语连接之后而生成的语义。本发表围绕着“的”的本质语义是什么这个问题，从认知语言学角度通过对照有“的”结构与无“的”结构来揭示“的”的本质语义，即：凸显某一部分。

◇12 月 7 日（土）お茶の水女子大学

・田禾（関西学院大学）：在句子末尾出现的副词“都/还”

本文对在句子末尾出现的副词“都”(如“作业做完了都。”)及“还”(如“老师没来呢还。”)的使用条件进行分析，比较句尾位置上的这两个副词与各自在谓词前出现时的不同(如“作业都做完了。/老师还没来呢。”)，尝试对句尾副词所承担的交际功能加以梳理，总结各自的语义特征。“都”在谓词前出现时，可以表示已经义和全部义。但是句尾的“都”只剩下与时间概念相关的已经义。说话人通过对事实的已然性的凸显，来向谈话对方传递不满等语气。“还”在句尾出现时也局限于与时间概念相关的“仍旧/尚未”义，通过事实与期待相反来传递说话人的不满。句尾的“都/还”在语义上均与时间相关这一点，揭示出能占据句尾位置的副词的共同特征。

・鄭文琪（お茶の水女子大学・院）：表可能的情态动词“会”指向将来时的用法考察

许多语言学者认为汉语是不具时制的语言，汉语里表达“时”的概念任务由“体”和“情态”来承担。例如：(1)这条鱼快死了。(2)这条鱼会死。上述二句皆表示将来可能发生的事件。例(1)句中的副词“快”和体助词“了”用来描述即将发生的事件。例(2)句中的认识情态动词“会”则是说话者对事件可能发生的判断。根据王(2007)，“会”的基本语义特征是非现实性，由于将来时具有不确定性，因此当事件发生在未来时，“会”的使用是无条件的。反之，笔者也注意到在表将

来时的句子里，有些时候“会”是不可省略的。本发表将透过例句考察，分析和“会”同现的谓语，以阐明“会”指向将来时的用法。

・新沼雅代（横浜国立大学）：横浜国立大学における中国語履修者の学習方略観と習得観
―学生が考える「中国語ができるようになるには」「中国語ができる」とは―

例えば、単語を視覚的に覚えることが得意な学生に、書き取り課題を多く出すことは効果的だろうか。学生がどのような学習方法を得意としているか、中国語学習ではどのような学習方略が効果的だと考えているかを教員が把握しておくことは、課題や授業内タスクの選択決定に有益である。本学の中国語履修者の約 32%は「ある程度のレベルまで学習したい」「学習したい気持ちが強い」と考えている（拙稿 2012:8）。中国語学習後にどのようなレベルに到達していると学生はイメージしているかを教員が知り、それを学習の動機づけに反映させることは授業工夫のひとつだと考える。本発表では、以上の二点について行った調査の結果と考察を報告する。

◆東海支部例会

◇11 月 30 日（土）愛知大学

・趙宏剛（名古屋大学・院）：从语法化看现代汉语“不管”类词的主观性

现代汉语的“不管”类词（“不管”、“不论”、“无论”）通过语法化成为无条件句的连词。对于“不管”类词语法化的研究，至今也已取得了一定的成果。但是，“不管”类词作为连词在句式中产生出怎样的主观性，这种主观性又对句式产生了怎样的影响？以往的研究针对这一问题还没有做系统地论述。从我们得出的结论来看，作为连词的“不管”类词的词汇意义虚化，在不同的句式中表现出说话人强度不同的主观性。当“不管”演变为话语标记（discourse marker）时，它不影响句子的基本意思，其主要功能是紧密衔接前后句子，并让听话人更好地理解前后话语之间的关系，凸显了语用意义。

・丸尾 誠（名古屋大学）：方向補語“下来”の「完了までの過程」を表す用法について

中国語の方向補語“下来”および“下去”の代表的な派生義として「継続義」が挙げられる。一般に前者は「過去から現在までの継続」を、後者は「これから引き続き行われること」を表すとされる。しかしながら例えば“照这样斗下来两头牛都得受伤”［このまま闘い続けたら、2 頭の牛はきっとどちらも怪我をする］という例では、発話時以降の継続を表すのに“斗下来”の形が用いられている（“斗下去”の形でも成立する）。本報告では“下去”との使い分けを踏まえつつ、各種意味的・統語的手段を用いて導入される動作・行為の「区切り」に反映された話者の認識という角度から、“下来”の「完了までの過程」を表す用法について考察する。

・荒川清秀（愛知大学）：「X時からY時まで～する」はどう言うか

“从 X 到 Y”については、“到”の品詞、全体の構造、XYに何がくるか等多く論じられてきたが、動詞との関係についての議論は少ない。その中で雷桂林 2003（『中国語学』250）は、この構造のプロトタイプである空間関係を表すものの後にくるものを「均質性を持つ線的事象」と概括した。しかし、時間関係たとえば、「9 時から 5 時まで働く」では、“从 9 点到 5 点工作”とも“从 9 点工作到 5 点”とも言えるが、「10 時から 6 時まで寝る」では“从 10 点睡到 6 点”と時間軸に沿った言い方をしなくてはならない。はたまた“睡觉”ではどうか。本報告ではこうした問題を考えてみたい。

◆関西支部例会

◇12 月 8 日(日)大阪産業大学梅田キャンパス

・斉艳茹（大阪大学・院）:“V+到”结构的汉日对比研究及关于“到”日本学习者的偏误分析

笔者从日本本科生的 500 多页汉语作文中共收集到 150 多个关于“到”的错误例句，可见，关于“到”的语法错误是一个不容忽视的存在。本次发表将整理后的典型错误例句呈献给大家并和日语对照进行相应的分析。但是，一直以来关于“到”的研究多是从时间和空间上来探讨，着眼于形式，多讨论其词性，对于不表示时间和空间的“到”的意义研究非常少。例如“我好不容易买到了那本书”,“通过这次旅游我学到了很多事儿”,“我一不小心打到他了”， “我一看到他就迷上了”等等这些句子里动词的后面为什么要加“到”？不同的动词和“到”结合产生为什么会有不同的意思？为什么即使是相同的动词和“到”结合也会产生不同的意思。本次发表将对此进行分析讨论。

・張軼欧（同志社大学）：零形式“得”字补语的语义、语用分析试析

汉语的口语中有一类像“看你笑得”,“瞧你这衣服脏得”这样一类“得”后面无其他成分的“得”字补语，在前人的研究中，有研究者将其称为“情态补语的省略形式”。由于对“省略形式”这种说法我们认为不太准确，故在本发表中我们将该类补语称为零形式“得”字补语。本发表主要从二外教学的角度出发，试着向汉语非母语学习者阐明零形式“得”字补语的语用意义、交际功能并试图从共时的层面分析这类补语的形成机制。

・田中智子（神戸夙川学院大学）：客家語における類別詞の機能考察

本発表では、台湾高雄市美濃区で話される客家語の類別詞（量詞）がもつ文法機能を考察する。美濃区の客家語の類別詞の結合相手は、（A）数詞、（B）指示詞に加えて(C)大きい”大 tai55”、小さい“細 se55”、という意味の形容詞がある。類別詞が（C）の形容詞と結合する現象は、若年層の話者でも観察される。また、広東語では、類別詞が上記の（A）、（B）、(C)に加えてさらに（D）人称代名詞と結合するが、美濃客家語では結合しない。美濃客家語の類別詞の示す文法的ふるまいが、台湾語や台湾華語にも並行して見られるかどうかもあわせて検討する。

・臼田真佐子（愛知大学）：学界展望・音韻文字訓詁をめぐって

「2011-2012 年度学界展望・語学」の音韻文字訓詁（『日本中国学会報』64-65、2012-2013 年)を担当したが、紙幅の関係でそこには盛り込めなかった点もある。まず、論文入手について、ウェブ上のサイト『CiNii』は、情報入手の上で非常に便利な反面、注意すべき箇所も少なくなかった。音韻については、上古音・中古音・近世音(近代音)・現代音等に分類したが、その分類について更に検討してみたい。特に近世音については、時代区分等、疑問に思うことがある。また、論文にキーワードを付けることも一部で行われているが、その点についても言及する予定である。

・秋谷裕幸(愛媛大学)：吴语婺州片的音韵特点

吴语婺州片分布在浙江省金华市。至今为止，在整个吴语研究当中，对婺州片的研究还相当薄弱。本文根据七个婺州片方言（金华、汤溪、武义、东阳、浦江、永康、磐安）的材料归纳婺州片的历史音韵特点，并进行与其他吴语之间的比较。研究结果表明，(1)婺州片属于南部吴语；(2）南部吴语当中与婺州片最接近的是处衢片，与瓯江片则较为疏远；(3）婺州片缺乏对内一致对外有区别的鉴别性音韵特点，所以，我们有必要重新探讨“婺州片”的谱系地位。

◆中国支部例会

◇10 月 20 日（日）広島大学東千田キャンパス

・滕小春（広島大学・非）：汉日词汇意义间的关联性介绍与学习效果

笔者（滕 2013）通过研究发现，汉日两种语言意义互相对应的单词之间，如果在认知上关联性越大，那么日本的初级汉语学习者就更容易记忆并再认出它们的日语意义。这给了我们一个启示：因为汉日两种语言之间词汇的关联性有时并不一定能够被日本的汉语学习者发现，如果我们在教学中帮助学习者发现所教汉语单词和日语单词之间的关联性，那么就有可能提高他们对目标单词的记忆和再认的学习效果。本研究通过教学实验，对以上推理进行了考察。结果表明，在教授日本的初级汉语学习者时，如果对所教单词和日语相对应意义之间的关联性进行介绍，学生对这些单词的记忆和再认的学习效果确实更佳。

・侯仁锋（県立広島大学）：试析日本高考汉语考试的语音测试

本文介绍了日本高考外语考试的汉语试卷语音部分的测试内容和测试形式，根据汉语语音本身的特点，参考测试理论及其实践对其试题进行了分析探讨，结果表明，测试内容偏难，测试范围模糊，测试形式欠严谨，缺乏精度。得出的见解是，只要是用笔试的形式测试语音，不管哪种形式，似乎都不够可靠，难以确保测试信度。

◆九州支部例会

◇12 月 7 日（土）北九州市立大学

・山口要(熊本学園大学博士後期課程）：クブルールの『中国古文大辞典』から見た19世紀の官話音系

本発表では中国語音韻史の観点からクブルールの『中国古文大辞典』(Séraphin Couvreur, 1890, *Dictionnaire Classique de la Langue Chinoise*)の官話音系を取り上げる。主な特徴として、(1)いわゆる「尖音」、「団音」の区別が保たれている。(2)ng 声母を持っている。(3) iŏ 韻母を持っている。(4)iai 韻母を持っている。(5)ouen 韻母を持っている。(6)中古音の咸摂、山摂開口二等荘組字と三等章組字において韻母が異なる。(7)中古音の通摂合口一等幇組字、三等非組字と曽摂、梗摂開口二等幇組字、及び開口三等知系章組字を区別する。『中国古文大辞典』の官話音系の特色は、現代北京語に比べて中古音に対応している点が多いことであるが、モリソンの『字典』やメドハーストの『華英字典』と比較すると、ウィリアムズの『漢英韻府』と同様に、対応している点は僅かに少ない。

・王一萍(熊本学園大学大学院博士後期課程）：法華字彙』に見る１９世紀末の上海方言語彙――単音節形容詞を中心に

フランス出身の宣教師 P. Corentin Pétillon による『法華字彙』（*Petit Dictionnaire Français-chinois, 1905*）は仏中対照の上海方言辞書で、当時の上海方言を忠実に記録したものである。本発表は『法華字彙』の出版背景や、体裁などを紹介した上で、その中から“棚”、“怵”、“痠”、“投”、“兴”等一部の単音節形容詞を取り上げ、更にエドキンズ（J. Edkins）や P.A.Parker 等在華宣教師による著作を参照し、単音節形容詞の実例およびその拡張した語形や用例を整理し、類義語間の意味の相違、当て字の使用などに検討と分析を加え、１９世紀末から２０世紀初頭にかけての上海方言語彙の実態の一端を解明する試みである。

・羅濟立(台湾東呉大学日本語学科副教授）：日本統治時期台湾客家語に入った三字漢語の日本語借用語―『廣東語辭典』（1932年）を資料に―

本発表は、日本統治時期対訳資料の『廣東語辭典』(1932 年)にあらわれる三字漢語の日本語借用語を研究対象に、その語構成の特徴を明らかにすることにより、統治時期どんな日本語が台湾客家語に流入したか

ということを考察したものである。その結果、次の 3 点が明らかになった。(1) 語構成パターンにおいて、2+1 型の三字漢語が抽出語全体の 87%を占めており、1+2 型のより圧倒的に多く、造語力の強さを見せている。(2) 後部一字語基では、48 種の語基が使用され、1 語基あたりの平均造語数が約 6 語となっており、平均造語数が最も多く、客家語への影響が比較的に大きい。(3) 二字語基の約 2～3 割は日本人による造語である。その二字語基の創出はほとんどが法律政治、教育文化、病気医療、金融経済などに関係する近代の言葉である。

・李智麗（熊本大学大学院博士後期課程）：「也」、「就」を含む「岐義句」の韻律特徴

現代中国語の副詞「也」、「又」、「再」、「就」、「才」、「都」、「只」は同じ文中位置でありながら、意味的にいくつかの要素を取り立てることができる特殊的な副詞である。重音がこれらの副詞を含む「岐義句」（同音異義文）の意味解釈に重要な役割を果たしていることが従来の研究から分かっている。本発表は重音だけではなく、ポーズ、語の音節数等の韻律特徴も文の意味決定に緊密に関わっていることを明らかにする。趙元任の「軽重の型」と馮勝利の「韻律詞」等の先行研究を踏まえて、「弱化」と「韻律フレーズ」の概念を導入し、特に副詞「也」と「就」に焦点を当て、副詞の意味決定における韻律特徴の役割を探る。

・陳陸琴（杭州師範大学修士三年生・熊本大学交換留学生）：中国語における「第三者の受身文」の構文特徴に関する一考察――述語動詞が自動詞である場合

一般的に、「第三者の受身文」は日本語特有であり、中国語には存在しないと言われている。しかし、中日対訳コーパス、茅盾文学奨を受賞した作品と先行研究から収集した例文によると、中国語には「第三者の受身文」がわずかであるが、確かに存在しているということが明らかである。本稿は中日対訳コーパス、茅盾文学奨を受賞した作品と先行研究から収集した例文を持ち、先行研究を踏まえ、中国語の「第三者の受身文」の構文特徴を明らかにしたい。（本稿では述語動詞が自動詞である受身文を「第三者の自動詞受身文」と呼んでいる）

・張晨迪（九州大学・院）：中国語の「有（yǒu）」についての再考察

中国語の「有（yǒu）」という語はさまざまな構文で大きな役割を果たす。しかし、従来の研究では、「有（yǒu）」の様々な用法に共通性があるにもかかわらず、別々の用法としてとらえてきた。たとえば、劉月華他（1988）は、以下のようにまとめている。(a) 屋里有人（存在）。(b) 这座桥有两层（所有）。(c) 去年国民收入又有了增长（出現）。(d) 云的种类很多，有卷云、积云、层云等（列挙）。(e) 那条河有五百米（到達）。本発表は、「統語意味論」という新しい枠組みに基づいて、「有（yǒu）」の用法を再考察し、その統語的・意味的共通性を捉えることを目的とする。

会議報告

■全国大会運営委員会

委員：竹越孝（委員長）、于康、遠藤雅裕、
大西博子、木津祐子、更科慎一、朱継征、
丸尾誠、三木夏華、三宅登之、森宏子

1. 2013 年度全国大会審査結果

応募総数は 115 件、うち会費未納者 4 件を除外したため、有効応募数は 111 件。審査の結果、口頭発表 58 件（うち講評つき 10 件）、ポスター発表 14 件の計 72 件を採択。不採択件数は 39 件。

2. 予稿集編集状況

予稿集原稿の締め切りは 9 月 16 日（月）、大幅に遅延した者 3 名につき理由書の提出を求めた。いずれもやむを得ぬ理由と認められたので、来年度の応募を認めない等のペナルティは科さないこととした。

3. 2014 年度大会開催校（2013 年度第一回理事会で承認済み）

大阪大学（豊中キャンパス）に内定、開催校代表は杉村博文会員、また大会運営委員としては鈴木慎吾会員、開催時期は 2014 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）に確定。

■辞典編纂委員会

委員：平田昌司（委員長）、大西克也、
小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、
三宅登之、山崎直樹、楊凱栄

1. 以下の日程で会議を開催した。

全体会議：2013 年 6 月 30 日（岩波書店）、9 月 29 日（岩波書店）

音声・音韻分野打合せ：2013 年 9 月 28 日（金沢大学）

現代語法分野打合せ：2013 年 11 月 23 日（東京大学駒場キャンパス）

史的研究分野打合せ：2013 年 10 月 27 日（東京外国語大学）

2. 進行状況の報告

・委員会で協議して定めた執筆担当者に原稿を依頼し、2013 年 9 月末日を第一次締切、2013 年 12 月末日を第二次締切とした。第一次締切の時点で約 400 項目が提出されており、現在も入稿が続いている。2016 年秋の 70 周年記念大会に間にあうように刊行するためには、2014 年 9 月までに査読・修正済みの原稿を出版社に引き渡す必要がある。今後とも御協力をお願いしたい。

・原稿査読にあたって、委員会のみでは人数・専門分野ともに全く不足なので、原稿チェックのために査読担当者を会員から委嘱することとした。

・事務局において、単純な誤記や記述の遺漏をチェックしたうえで、逐次査読をすすめる。委員会の責任で加筆した修正原稿を執筆担当者に返送し、確認を経て、最終原稿作成作業にすすむ。

・「手話」の項目のみは、専門性にかんがみて非会員に執筆を依頼し、無償で執筆協力を得られることとなった。

・岩波書店が直接編集に関与するのは、2014 年夏に原稿引き渡しをおこなってからである。それまでは辞典編纂委員会の責任で作業をすすめる。　（文責：平田昌司）

■ 2013 年度第 2 回理事会

日時：2013 年 10 月 25 日（金）17 時～19 時
場所：東京外国語大学本部管理棟 2 階小会議室

出席者：古屋昭弘（会長）、太田斎（副会長）、
大西克也、小野秀樹*、佐藤富士男、
三宅登之、楊凱栄、依藤醇；
竹越孝（大会運営委員長）；
鈴木慎吾（ウェブリソース委員会委員長）；
楊 達、千葉謙悟（以上幹事）
* 編集委員会委員長を兼ねる

■2013 年度評議会

日時：2013 年 10 月 26 日（土）10 時 30 分～11 時 30 分
場所：東京外国語大学研究講義棟 102 中講義室
出席者：構成員 47 名（定数 62）

■2012 年度総会

日時：2013 年 10 月 26 日（土）17 時～18 時
場所：東京外国語大学研究講義棟マルチメディアホール

【議長選出】

議長に下地早智子会員（神戸市外国語大学）と町田茂会員（山梨大学）を選出した。

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 会員動向（10 月 1 日現在）

会員数：(2012 年 10 月 1 日から 1 年間の増減：除籍予定者、住所不明者、年度末退会予定者を含む)

			増減
総会員数（賛助除く）		1199 名	−25
（内訳）	顧問	5 名	−1
	名誉会員	25 名	±0
	通常会員	797 名	−21
	ネット会員	272 名	−4
	団体会員	8 名	−1
	海外会員	92 名	+2
賛助会員		24 社	±0

・〔昨年度除籍者〕25 名（国内会員 20 名/海外会員 5 名）［2012 年 12 月 10 日付］
・〔昨年度末退会者〕25 人［2013 年 4 月 1 日付］
・〔今年度除籍予定者〕31 名（国内会員 22 名/海外会員 9 名）［最終除籍者は 25 名 → p19］
・〔ご逝去〕2 名（鐘ヶ江信光顧問、渡部昭夫会員）

＊ 会員動向については、直近の数字ではなく、4 月 1 日付の状況を春の理事会に、10 月 1 日の状況を秋の理事会に報告する。

＊ e-naf の管理者ページには、賛助会員およびダミーデータ 1 名および海外特別編集委員 4 名と国内寄贈会員 1 名を加えた合計 1229 名を「現在の会員数」として表示［10 月 1 日付］.

1.2 事務局の所在地について

［本部所在地］（2014 年 3 月 31 日まで）
〒162-8644　東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院中国語中国文学研究室内　　日本中国語学会事務局
［会員関係］
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷株式会社　学会部内
担当：小畑香菜
Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662
E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

・過去一年間の実績は『中国語学』260 号「彙報」を参照.
・支部例会開催通知はメールに移行。今後はメール配信希望者全員にすべての支部の例会開催を通知することが了解された。ハガキ必要の方には郵送を継続。

3. 編集委員会報告

小野委員長より以下の報告があった。

・『中国語学』260 号、2013 年 10 月 26 日、1,455 部発行

・学会奨励賞について

厳正な選考の結果、今回は該当者なしと決定。

・執筆要領の改訂と投稿規程について

2 種のサマリー・キーワードのうち 1 種は必ず英語とすること。学会ウェブサイトに原稿テンプレートを載せたので、今後の投稿は必ずそれに準拠すること。

4. ウェブリソース委員会報告

鈴木委員長より以下の報告があった。

・国立国会図書館からニューズレター「日本中国語学会々報」の PDF 版（本会ウェブサイト上に掲載）を納入するよう通知があった。バックナンバーを含めて応じる意向。

・委員の交代：鈴木慎吾、石崎博志、山崎直樹は 2014 年 3 月で任期切れ。鈴木、石崎は留任、残り一名の後任は未定。

5. 大会運営委員会報告

竹越委員長より以下の報告があった。

・2013 年度全国大会審査結果

応募総数は 115 件、うち会費未納者 4 件を除外したため、有効応募数は 111 件。審査の結果、口頭発表 58 件（うち講評つき 10 件）、ポスター発表 14 件の計 72 件を採択。不採択件数は 39 件。

・予稿集編集状況

予稿集原稿の締め切りは 9 月 16 日（月）、大幅に遅延した者 3 名につき理由書の提出を求めた。いずれもやむを得ぬ理由と認められたので、来年度の応募を認めない等のペナルティは科さないこととした。

・2014 年度大会開催校（2013 年度第一回理事会で承認済み）

大阪大学（豊中キャンパス）に内定、開催校代表は杉村博文会員、また大会運営委員としては鈴木慎吾会員、開催時期は 2014 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）を予定。

今後、次期開催校希望がある場合は 11 月中に大会運営委員会に連絡してほしい。

6. 辞典編纂委員会報告

平田委員長より以下の報告があった。

・以下の日程で会議を開催した。

全体会議：2013 年 6 月 30 日（岩波書店）、9 月 29 日（岩波書店）

音声・音韻分野打合せ：2013 年 9 月 28 日（金沢大学）

・進行状況の報告

委員会で協議して定めた執筆担当者に原稿を依頼し、2013 年 9 月末日を第一次締切、2013 年 12 月末日を第二次締切とした。第一次締切の時点で約 400 項目が提出されており、現在も入稿が続いている。2016 年秋の 70 周年記念大会に間にあうように刊行するためには、2014 年 9 月までに査読・修正済みの原稿を出版社に引き渡す必要がある。今後とも御協力をお願いしたい。

原稿査読にあたって、委員会のみでは人数・専門分野ともに全く不足なので、原稿チェックのために査読担当者を会員から委嘱することとした。

事務局において、単純な誤記や記述の遺漏をチェックしたうえで、逐次査読をすすめる。委員会の責任で加筆した修正原稿を執筆担当者に返送し、確認を経て、最終原稿作成作業にすすむ。

「手話」の項目のみは、専門性にかんがみて非会員に執筆を依頼し、無償で執筆協力を得られることとなった。

岩波書店が直接編集に関与するのは、2014 年夏に原稿引き渡しをおこなってからである。

それまでは辞典編纂委員会の責任で作業をすすめる。

7. 次期大会開催校の決定

古屋会長より 2014 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）に大阪大学（豊中キャンパス）で開かれる旨、正式なアナウンスがあり、開催校の鈴木慎吾会員から挨拶があった。

8. 役員等の異動について

古屋会長より以下について正式なアナウンスがあった（今年度第 1 理事会で報告済み）。

ウェブリソース委員交代

澤田達也会員（大阪大）

→植屋高史会員（千葉大）

評議員交代

関東支部：今井敬子会員（静岡大）

→埋田重夫会員（静岡大）

九州支部：千島英一会員（熊本大）

→甲斐勝二会員（福岡大）

9. その他

古屋会長より以下の報告があった。

・入会希望者への対応について

・科研費申請について

・顧問・名誉会員の推挙について

10. 選挙結果について

依藤選挙管理委員長より、次期理事候補についての選挙結果の報告がされた。結果については本号「理事選挙開票結果報告」(p4) を参照。

審議事項

1. 著作権規定制定について

大西理事より、理事会と評議会で承認された以下の著作権規定（および著作物利用申請書・著作物利用許可書）について詳しい説明がなされた。

日本中国語学会著作権規定

（目的）

第１条　本規定は、日本中国語学会（以下、本学会という。）が刊行するすべての著作物（以下「本著作物」という。）に関する著作権の取り扱いに関する基本事項を定める。

（原則）

第２条　本著作物の著作者（以下「本著作者」という。）の国籍に関わらず、本規定が定める事項は、日本国著作権法が定めるところにより処理するものとする。

（帰属）

第３条 本著作物のすべての著作財産権（著作権法第２１ 条（複製権）、第２３ 条（公衆送信権等）、第２７ 条（翻訳権、翻案権等）及び第２８ 条（二次的著作物の利用に関する原著作者の権利）が定める権利を含む。）は、本著作物が本学会に投稿された時をもって本学会に帰属する。

２　本著作物が本学会の出版物に掲載されなかった場合、又は掲載されないことを本学会が決定した場合、当該本著作物につき前項を適用しない。

（著作者人格権の不行使）

第４条　本著作者は、本学会及び本学会が本著作物の利用を許諾した第三者に対し、本著作物の著作者人格権を行使しない。

２　前項の規定は、本学会が本著作物を原著作物として二次的著作物を作成した場合においても適用される。

（著作者による著作物の利用）

第５条　本著作者は、当該本著作者が創作した本著作物を利用する場合（第三者に利用を

許諾する場合を含む。)、その利用目的等の本学会が別途定める事項を記載した書面により本学会に申請し、その許諾を得るものとする。

２　本学会は、当該本著作物の利用が、学会の目的又は活動の趣旨に反しない限り、前項に定める本著作者からの申請を許諾する。

３　第１項の規定にかかわらず、本著作者は、次の各号に定める場合には、本学会の許諾を得ることなく本著作物を利用できるものとする。

（１）本著作者自身が、本著作物を学術的かつ営利を目的としない出版物において利用する場合。

（２）本著作者個人又は本著作者が所属する法人若しくは団体のウェブサイトにおいて、自ら創作した本著作物を掲載する場合（機関リポジトリへの保存及び公開を含む。）但し、当該本著作物が掲載された本学会の刊行物の刊行後３年を経過していること、出処を明示することを条件とする。

（３）本著作者が大会予稿集に掲載された本著作物を利用する場合。

（４）著作権法第３０ 条から第５０ 条（著作権の制限）において許容された利用。

（著作者による保証）

第６条　本著作者は、本著作物が、第三者の権利を一切侵害していないことを保証する。

（紛争解決）

第７条　本著作物に関する第三者からの権利侵害又は本著作物による第三者に対する権利侵害等、本著作物に関して紛争が発生した場合又は発生するおそれがある場合、本著作者及び本学会は相互に協力してこれに対処する。

２　本規定による一切の紛争の第１審専属的合意管轄裁判所は東京地方裁判所または大阪地方裁判所とする。

附則

本規定は、2013 年 10 月 26 日より施行する。

以上のほか資料として「日本中国語学会著作物利用申請書」「日本中国語学会著作物利用許可書」の様式も提示された。申請書は今後学会ウェブサイトからダウンロードできるようになる予定。

大西理事からは、著作権との関連で、『中国語学』投稿の際の注意事項に関する説明があった。第３条に規定されているように、『中国語学』へ投稿された時点で、著作物の著作財産権は学会に帰属する。従って二重投稿が許されないことはもちろんであるが、たとえば、出版社などとの間で自著の出版の計画が進んでいる最中に、その中の一部分を『中国語学』に投稿し、査読を通過して『中国語学』刊行と前後して自著が出版される場合なども、本学会の著作権への重大な違反となり、学会として法的対処を行うこともあり得るので注意が必要である。既に『中国語学』に掲載された論文を別途商業出版物に使用する場合には第５条に規定する許諾の手続きが必要になる。なお、許諾の手続きを必要としない例外については同条第３項に規定されているが、「学術的かつ営利を目的としない出版物」とは、学位論文を念頭に置いている。ウェブサイトにおける公開についても、出版後３年を要するので注意されたい。投稿に当たって疑問があれば、事前に編集委員会に問い合わせて頂きたい。

2. 予算案・決算案

2.1　2012 年度会計決算案（次頁資料参照）

千葉幹事による報告・説明、及び荒木典子・張盛開会計監査による会計監査報告があり、報告の通り承認された。

2.2　2013 年度会計補正予算案（同上）

千葉幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

2.3　2014 年度会計予算案（同上）

千葉幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

2012 年度会計決算書（2012 年 4 月～2013 年 3 月）　2013 年 10 月 26 日総会承認

＜収入＞（単位:円）	予算	決算
前年度繰越金	6,426,489	6,426,489
積立金	2,360,000	2,360,000
通常会員･海外会員会費収入	6,800,000	6,274,080
賛助会員会費収入	780,000	720,000
『中国語学』売上金	408,152	408,152
予稿集売上金	450,000	630,500
印税(著作権使用料)	45,000	45,000
通常貯金利子		1,018
満期貯金利子		11,238
早稲田大学学会事務補助金		45,000
別刷追加分料金		11,820
計	17,269,641	16,933,297

＜支出＞	予算	決算
会誌印刷費	2,800,000	1,610,662
予稿集印刷費	500,000	678,615
大会助成費	300,000	300,000
支部活動助成費	450,000	299,276
通信費	500,000	486,394
事務費	2,100,000	1,502,959
大会事務費	800,000	156,904
学会連合等年会費	42,000	42,000
事務局費	350,000	187,323
編集委員会経費	120,000	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000	37,554
ホームページ関連経費	180,000	91,200
大会運営委員会経費	220,000	141,930
旅費交通費	750,000	392,000
会議費等雑費	180,000	56,000

学会奨励賞	100,000	100,000
会員名簿印刷費	780,000	840,000
積立金	2,400,000	2,400,000
［内訳］		
記念大会積立金（22 万）		
事務委託関係積立金（118 万）		
ウェブサイト構築積立金（50 万）		
国際会議開催支援積立金（50 万）		
予備費	4,577,641	7,490,480
計	17,269,641	16,933,297

監査の結果、経理内容は適正であり、経理諸表は適確に処理されていることを認めます。

2013 年 7 月 27 日

2012 年度会計監査　張　盛開

2012 年度会計監査　荒木典子

2013 年度会計補正予算案（2013 年 4 月～2014 年 3 月）　2013 年 10 月 26 日総会承認

＜収入＞	
前年度繰越金	7,490,480
積立金	2,400,000
通常会員会費収入	6,000,000
賛助会員会費収入	700,000
『中国語学』売上金	485,659
事務補助費（早稲田大学）	50,000
予稿集売上金	450,000
計	17,576,139

＜支出＞	（単位:円）
会誌印刷費	2,800,000
予稿集印刷費	500,000
大会助成費	300,000
支部活動助成費	450,000
通信費	500,000
事務費	2,100,000
大会事務費	800,000
学会連合等年会費	42,000
事務局費	350,000
編集委員会経費	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000
ホームページ関連経費	180,000
大会運営委員会経費	220,000
辞典編纂委員会経費	120,000
旅費交通費	750,000
会議費等雑費	180,000

学会奨励賞	100,000
選挙関連費	100,000
積立金	2,440,000
[内訳] 記念大会積立金（26 万）	
事務委託関係積立金（118 万）	
ウェブサイト構築等積立金（50 万）	
国際会議開催支援積立金（50 万）	
予備費	5,404,139
計	17,576,139

2014 年度会計予算案（2014 年 4 月～2015 年 3 月）　2013 年 10 月 26 日総会承認

＜収入＞	
前年度繰越金	5,404,139
積立からの繰入金	2,440,000
通常会員会費収入	6,000,000
賛助会員会費収入	720,000
『中国語学』売上金	400,000
予稿集売上金	450,000
計	15,414,139

＜支出＞	（単位:円）
会誌印刷費	2,800,000
予稿集印刷費	500,000
大会助成費	300,000
支部活動助成費	450,000
通信費	500,000
事務費	2,000,000
大会事務費	300,000
学会連合等年会費	42,000
事務局費	350,000
編集委員会経費	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000
ホームページ関連経費	180,000
大会運営委員会経費	220,000
辞典編纂委員会経費	120,000
旅費交通費	600,000
会議費等雑費	180,000
学会奨励賞	100,000
会員名簿印刷費	780,000
積立金	2,480,000
[内訳]	
記念大会積立金（28 万）	

事務委託関係積立金（120 万）	
ウェブサイト構築等積立金（50 万）	
国際会議開催支援積立金（50 万）	
予備費	3,272,139
計	15,414,139

例会および全国大会開催のお知らせ

今年度の例会実施予定

各支部の今後の例会実施予定は次のようになっております。

北海道支部：2014 年 3 月

北陸支部：2014 年 3 月

関東支部：2014 年 3 月 15 日

関東支部、関西支部、九州支部の 12 月例会はそれぞれ 7 日､8 日､7 日に開催済みです。

支部例会の発表者、参会者ともに歓迎いたします。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしております。この要旨は、学会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しています。年に 2 回発行の学会ニューズレターにも掲載します（頁数の関係で掲載できないこともあります）。

なお、開催予定は変更になることがありますので、詳細は、各支部例会担当者までお問い合わせ下さい。担当者の連絡先は、学会ウェブサイトをご参照ください。

（事務局）

第 64 回全国大会開催のお知らせ

日本中国語学会第 64 回全国大会は、2014 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）に大阪大学（豊中キャンパス）にて開催されます。ワークショップの応募要項は 2013 年 12 月末までに、一般研究発表の応募要項は 2014 年 4 月初旬までに学会ウェブサイトに掲載されます。

（第 64 回全国大会準備会）

事務局からのお知らせ

■ 会費未納による除籍者

（「会費納入に関する内規」による）

→ 紙版ニューズレターに掲載

■ 退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出ください。

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、ご連絡をお願い致します。

→ 紙版ニューズレターに掲載

■ 2013 年度会費納入のお願い

会費未納の方には、11月末に振込用紙を同封して納入依頼のご連絡をお送りしました。年会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務処理上、2013年12月31日までにご入金くださいますよう、御協力をお願い致します。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00980-6-282216

■ 顧問・名誉会員の推挙

顧問・名誉会員のご推挙は、推薦文を添えて2014年9月30日までに事務局宛にお願いいたします。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第61回までは1500円、それ以降は2000円となっております。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（**order@kohbun.co.jp**）に直接お問い合わせください。

■ 事務局への連絡先

各会員の登録情報は、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の e-naf（オンライン会員情報管理システム）から、会員ご自身でログインして確認と更新ができます。事務局への問合せは、学会ウェブサイトの「お問い合わせ」ページをご利用ください。

日本中国語学会々報　2013 年秋季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院
中国語学中国文学研究室内
E-mail: jimukyok@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2013 年 12 月 10 日